

未来に向かって 女性の活動プラン



解脱会

「女性目標」と「女性活動の目的」

イキイキと
女性を生きよう！

〔女性目標〕

「女性らしい女性」

- 一、女性として生まれたことを喜べる女性
- 一、いのちを尊び育む力を発揮できる女性
- 一、和して前向きに凜と生きる女性

〔女性活動の目的〕

しっかりとした人物を育て、社会のために貢献する

一、はじめに

解脱を学ぶ女性の目標は「女性らしい女性」になることです。「女性らしさ」とは何か。それは、女性の天分を発揮することです。女性の天分とはすなわち「やすらぎ」「あったか」「思いやり」の心です。

現在、本会では「婦道十訓」を女性の学びの基本においています。その内容を常に心にとめて、日々、魂の錬成に励めるようにと提唱したのが女性活動合言葉「やすらぎ・あったか・思いやり」です。(注1)

「やすらぎ」とは、安心感や居心地の良さであり、「あったか」は、神心に通じる愛と誠です。そして「思いやり」は、人やモノなど一切に対する敬意であり、礼節を尽くすことです。太神様から女性として生きることを望まれてこの世に生を享けた私たちは、女性にしかできない役目、役割を正しく知って、女性という性をイキイキと楽しみながら、味わいながら一生を送ることが、豊かな人生を生き切ったということになるのではないのでしょうか。

そこで、これまでの女性部員の定義として定着している婦人部と言われていた時代の「結婚したら青年部から婦人部へ」や、現在定められている「35歳を過ぎたら青年部から女性部へ」という枠組みを外し、「若いも若きも幼少期の子供たちも、女性として生を享けたらみんな女性部員」とし、さらに「その年代に合った学びと活動を通して、家庭や社会の中で実践できることを体得できる場としての女性部」へと変わっていくことをこの「女性の活動プラン」で提示しました。

目指すは、どの集まりでも女性活動合言葉である「やすらぎ・あったか・思いやり」を感じられ、年代を重ねることの美しさを体現できる女性でいっぱいにすることです。そして、女性活動の目的である「しっかりした人物を育て、社会のために貢献する」ことを実現するために活動することです。

この「女性の活動プラン」は、令和2年に感染拡大した新型コロナウイルスによって先行きの見えない中、「コロナ後」という新しい視点を加味しながら作成しました。これを軸に、その時代や状況に合った様々な提案をしながら、一つひとつ具体化していきたいと考えています。

(注1) この合言葉は、平成29年3月に開催された「教区五担当者研修」における「女性担当者研修」に参加した女性担当者の賛同を得た上で、7月より女性主体の行事等で唱和することが常任理事会で承認されました。また6月の「本部布教推進会議」及び6月度「本部通信」でもお知らせしています。

「私たちが目指す女性の活動」

青少年の育成（しっかりとした人物を育てる）を柱として
女性のライフステージと自律性を重視した
女性ならではの社会のために貢献できる活動

【Point】

1. 若年層、子育て層、就労層が参加できる仕組みを構築する
2. 女子青年部と女性部が連携した活動を推進する
3. 各年代、同じような境遇の人たちが、そのライフステージに合った学びをする
4. 受け身ではなく、自分たちで主体的な活動を行う
5. 圏域をベースに、地域、社会に役立つ活動を行う
6. コロナ禍後の活動 ⇒ 新しい時代に向けた取り組みを行う

二、この「女性の活動プラン」の基となったアンケートについて

この活動プランを作成するにあたっては、平成 29 年、本部道場・御霊地道場・湘南道場・中部道場・関西道場の各直轄道場の報恩日・感謝日・青年講座において、20 歳代・30 歳代・40 歳代・50 歳代・60 歳以上の女性を対象に、各年代 20 名、計 100 名に、さらには未婚の女性に絞り込み、60 名の方に「女性活動に関するアンケート」を実施いたしました。

女子青年部員、未婚者、既婚者、寡婦など様々な方がご協力くださり、その調査結果によって現在の女性部の活動の一端を垣間見ることができました。

アンケートは、一人ひとりにヒアリングをしながら行い、その実態把握を踏まえ、更に日々私たちが圏域、教区、支部での活動の中で感じている実感や、コロナ禍の中での実情も加味しながら、議論を重ねてきました。

その中で見えてきたのは、「女子青年としての活動から女性部としての活動に移行する時の年齢ギャップによる敷居の高さ」や、「働く女性が増えている社会状況下、平日昼間の活動には参加できないという実態」、「子育て、介護のために時間的制約がある」「現在の自分とかけ離れたテーマの企画には参加したくない」「上の世代の方々と同じ場では意見が言いにくい」等、現在の女性部の活動へは参加がしにくいという事でした。同時に、これまでの女性部の活動は、参加できる層・世代が決まってしまっているという実態も見えました。

現状を打破するためには、現在参加していない人たちが参加してみたいと思える魅力的な内容を提供すると同時に、参加しやすさを工夫していくことが必要です。

そこでまず、「同じ年代」「似たような境遇」、そして「同じ時間帯を共有できる」女性たちが接点を持てる場や情報や素材など必要なものを提供することから始めたいと考えました。今の時代、「何をするか」も大切ですが、それ以上に「誰とするか」が、重要です。特に若い世代の人たちは、「何をするか」よりも「誰とするか」を基準に参加を決めているのが現実です。

また、青年部活動を行っている若い世代や、子育て層、キャリア世代の生の声として「日常の些細な悩みや人に訊ねにくいこと、今まさに困っていること等々について、少し前に経験した数歳上の先輩から話を聞きたい」という声も多く聞かれました。各世代のつながりと共に、世代を越えた取り組みの必要性も感じています。

以上を鑑み、イキイキと女性を生きるために、一生を通してみ教えを学び続けることのできる女性の活動を提示することにいたしました。



三、女性の一生と女性部

前項二で見えてきた、一生を通してみ教えを学び続けることのできる女性部組織について前頁のような図（図1）で表わしてみました。

先に述べた通り、解脱会女性部を「女性として家庭や社会で実践できることを、その年代に合った学びと活動を通して体得できる場」にしていくためには、まず現状の中で女性部活動に参加しにくい若年層、子育て層、就労層が参加できる仕組みを構築していく必要があります。

若年層は、青年部、女性部にまたがる層でもあるので、青年部との連携が不可欠となります。青年部活動を男性と共に行いながら、女性（女子青年部員）たちが、女子青年部活動を主体的に推進していくこと、そして年齢及びライフステージの変化と共に、自然な形で次のステップに移行できるようにすることが重要です。

子育て層、特に小さなお子さんを育てている層については、こども会との連携が不可欠です。女性（母親）が、子供の付き添いをするだけでなく、女性として、母親として役に立つ学びができるように、「本部こども育成会議」と協力して、具体的な目標や活動を示していきます。

60歳代あるいは子育てを終えると第二の人生がスタートします。再就職や親の介護といった、これまで経験をしたことのない中で起こる様々な問題も、同じ年代・同じ境遇の仲間がいれば心強いものです。また、経験を通して問題解決への道を示してくれることもあるでしょう。これまで培ってきた仲間づくりが実を結びます。

その頃になると、充実した活動を、圏域・教区・支部でできるでしょう。しかし、その年代に入ったならばその先の人生を視野に入れる必要があります。

新型コロナウイルスの蔓延によって顕著になりましたが、それ以前から高齢になって支部に通えなくなったことを理由に退会する会員が多くありました。それはとても残念なことです。そこで提案したいのが、所属教区や支部での学びや活動は当然のことながら、支部以外であっても、同じ地域に住む会員が集って協力し合い、地域に根差した学びや活動をすることです。

そのようにして知り合った同世代の仲間と、同じ地域に住まう高齢会員から人生の先輩としての知恵を学びながら、お世話をさせていただく。そうして築いた法縁の仲間と、65歳を越えたら俗にいう「終活」ではなく、これまでの人生の「集大成」として、「集って」学び合い、助け合いながら、報恩行としてのお導きをする「集活」を目指します。

このように、こども会、青年部、女性部が柔軟に連携することが、それぞれの活動を活性化させる基盤となり、こども会から青年部、青年部から女性部への移行が、垣根なく、スムーズに行えるようになります。さらに人生の終盤を迎えても、金剛さまのみ弟子である同志と共に、互いに支え、支えられながら、安心立命の毎日を送ることができるでしょう。

青少年の育成を柱として、それぞれの経験を生かして役割を発揮していく、つまり、各世代が自分たちらしくイキイキと活動する中で、世代を超えて連帯していく姿こそが、私たちの目指す姿です。

四、人材育成と活動（年代に合わせたみ教えの展開）

金剛さまが目指されたこと、それは国の基礎となる人材を育成することです。つまり、私たち一人ひとりがみ教えを深く学び、人格完成の道を歩むことが何より金剛さまの望まれたことであると言えます。

支部を中心として、教区、圏域、全国で、この『女性の活動プラン』に基づいた女性部活動を行うことが、ひいては、「世相善導・人心救済」「解脱世界の実現」に貢献し、金剛さまの望まれた姿に近づくと考えます。

これらの活動を途切れさせることなく、より発展させ、未来につなげていくためには、「自ら考え、主体的に行動できる人づくり」が必須です。

そのためにまず必要なのは、同世代、似たような境遇の人たちが手を携えて「やすらぎ・あったか・思いやり」の輪を広げながら、互いに切磋琢磨しつつ、イキイキと活動できる場をつくることです。その中で、自ら考え主体的に行動できる自立した「個」として、特性を生かせる人づくりを行います。

このような人材育成を行うには、年間を通じて学びを深める継続的な研修が必要となります。さらには承り型の研修ではなく、一人ひとりが主体的に参加し、力をつけていけるような研修内容を提供するため、外部講師、専門家の関わりも必要です。

新型コロナウイルス禍によって、大勢が集まったの研修開催が困難な状況を経験する中で、「実際に集まることと、オンラインでの参加を組み合わせた混合型」の取り組みが現実的であり、有効であることがわかりました。それをモデル圏域、モデル教区、モデル支部を決めて取り組んでみたいと考えています。そこには、全国一律ではなく、その地域の課題を解決できるような、その地域に必要な要素を取り入れます。

その後、各圏域からの要望や要請にそって具体的プランを提供していきます。

五、まとめ～新しい時代にむけて～

新型コロナウイルス禍の中で、私たちは移動や行動の制限をされ、これまで当たり前のように行ってきた様々なことができなくなるという体験をしています。しかしそのことをマイナスではなく、あらためて、行事や活動の意義を問い直し、本質を見つめ直す機会をいただいたと捉えたいと思います。

直接顔を合わせることで、大勢が集まるのが行事、活動の価値ではなく、より多くの会員が、どこに住んでいても、どんなライフスタイルであっても、平等に、有益な情報を得られ、有意義な体験をすることができ、主体的に活動に

参加している状態を作ることが価値であると捉え返すと、オンライン等の様々な手段や方法を活用し、柔軟に活動を展開していくことが、全国会員にとって有効です。

本部ではすでにホームページで本会の情報を一般公開している他、会員専用ページを設け、会員向けの情報を公開しています。また、全国の役員を対象とした「本部全体会議」では、本部道場を主会場に各直轄道場を結んでのリモート会議を試みるなど、今後の諸会議の在り方の方向性を探る取り組みが始まっています。

女性の活動についても、会員専用ページに新設された「女性部のページ」の活用から始めます。情報提供は言うまでもなく、全国の女性部員が「いつでも・どこでも」学べるように、子育てや、女性ならではのテーマの教材を取り上げていきます。各圏域、各教区、各支部での取り組みに加え、全国の女性部員が同じ教材で学び、共にレベルアップを図ることが、これからの女性活動を大きく飛躍させる原動力になるでしょう。ゆくゆくは、オンラインコミュニティのような双方向型コミュニケーションツールとして活用できるようにしていきます。

以上、新しい時代に向けて「やすらぎ・あったか・思いやり」の輪が広がり、金剛さまの目指された世界の実現の一助となるように、多くの方々のご理解と賛同のもと、このプランの実現に向けて歩んでいきたいと考えます。そして、女性たちがイキイキと活動に参加されることを希望します。